

地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	長野県飯田市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	飯田市文化遺産継承活用事業	【計画の改善時期】 平成30年度	
4 実施計画期間	平成 23 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>「飯田市文化芸術振興基本方針」（平成19年度策定）を踏まえ、地域の文化遺産の次世代への継承・発展や、文化遺産を活用した地域活性化、次世代を担う人材育成を進めるため、以下の事業を実施する。また、計画期間中、これらの取組を通じて、行政と民間団体、文化財保護団体による連携・協力体制の確立を目指す。</p> <p>1. 座光寺「2000年浪漫の郷」づくり文化遺産活性化事業 2. 川路地区文化遺産継承・活性化事業</p>			
6 実施体制			
<p>飯田市が、本実施計画に係る全体の企画・調整や、各補助事業に係る指導などを行う。主な担当課と役割は以下のとおりである。</p> <p>主な担当課と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合政策部 企画課：全体の企画・調整 ・教育委員会 生涯学習・スポーツ課 <ul style="list-style-type: none"> 地育力向上係：各補助事業に関する調整など 文化財活用係：文化財の取扱などに関する指導 文化財保護係：文化財の取扱などに関する指導 美術博物館：民俗芸能・郷土資料調査に関する指導 図書館：郷土資料調査に関する指導 歴史研究所：歴史的建造物・古文書などに関する調査研究などの企画 文化会館（人形館など関連施設を含む）：人形劇・伝統芸能の調査に関する指導 <p>また、補助事業は次の団体が実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田市文化遺産継承活用実行委員会（実行委員長：小島稔） 構成団体（座光寺地域自治会、飯田市歴史研究所） <p>計画期間終了後も、実行委員会が主体となり、文化遺産の継承活動を進め、市としてそれを支援していく。この事業で得た評価については、構成団体が個別に行う事業（歴史に関する講座や地区の文化祭等での発表・展示）で市民に広め、市も専門的視野からアドバイスし協働で文化遺産の継承をしていく。</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 28,389 千円	平成31年度申請額： 576 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>1. 想定される効果</p> <p>地域の文化遺産が保存活用され、次世代へ確実に継承される。同時に、市民のふるさと意識が醸成され、次世代を担う人材の育成および地域づくりに寄与することができる。また、行政と住民組織が協働で事業を実施することにより、住民が地域資源を認識し、活用する力が育つとともに、連携・協力体制が構築され、地域の活性化につながる。さらに、飯田の魅力を外に伝え、観光客の増加にも寄与することができる。</p> <p>2. 実施計画期間全体（平成23年度～平成33年度）における効果の測定方法</p> <p>①ふるさと（飯田）を誇りに思っている市民（成人）の割合 平成22年度：75.9% → 平成33年度〔目標〕：76.8%</p> <p>②ふるさとに愛着を感じている高校生の割合 平成22年度：71.1% → 平成33年度〔目標〕：79.6%</p> <p>③飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数（延人数） 平成22年度：41,358人 → 平成33年度〔目標〕：46,300人</p>			

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）	
事業概要：	補助事業のうち、座光寺「2000年浪漫の郷」づくり文化遺産活性化事業については、文化芸術費補助金の交付を要望している事業（パンフレットの作成、聞き取り音声データの文章化、観光ボランティア立ち上げに向けた講演会、地域住民を対象とした講演会など）以外にも、自主財源を用いて、地域に残る歴史文化遺産の調査研究と保存管理、現地学習会や見学会、観光ボランティアガイドの組織づくりを進める予定である。また、計画期間終了後も補助事業の成果を継承する取り組みを進めるため、座光寺地域自治会やその特別委員会「歴史に学び地域をたずねる会」を中心に、具体案の検討を行っている。
事業概要：	補助事業のうち、川路地区文化遺産継承・活性化事業については、文化芸術費補助金の交付を要望している事業（地域史講座）以外にも、自主財源を用いて、調査研究やワークショップ、講座を予定している。また、計画期間終了後も、自主財源や種々の補助を利用しながら、調査研究やその成果を公表する取り組み（講座や出版物など）を継続的に進める予定である。
事業概要：	
11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等	
<p>本事業の実施を通して、地域の文化遺産の次世代への継承・発展、文化遺産を活用した地域活性化、次世代を担う人材育成を進め、行政と民間団体、文化財保護団体による連携・協力体制を確立させたうえで、今後文化遺産の悉皆調査を行い、歴史文化基本構想の策定を検討する。（文化財保存活用地域計画の作成については現在のところ未定。）</p>	
12 担当部局	
地方公共団体 担当部局課	飯田市教育委員会 飯田市歴史研究所

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 1 :	地域に誇りを感じる住民の割合					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 1 :	ふるさと(飯田)を誇りに思っている市民(成人)の割合			関連事業:	①②③④⑤⑥	
目標値 1 :	【現状値】 平成 27 年度 74.3 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 76.8 %					
設定根拠 1 :	平成27年度までおおよそ横ばいで推移しているため、平成27年度の数値を基準に平成29年度以降5年間で年平均約0.5%ずつの増加と設定					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
73.4 %	69.9 %	%	%	%	%	
95.6%	91.0%					
目標区分 2 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2 :	地域に誇りを感じる住民の割合					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 2 :	ふるさとに愛着を感じている高校生の割合			関連事業:	①②③④⑤⑥	
目標値 2 :	【現状値】 平成 27 年度 75.6 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 79.6 %					
設定根拠 2 :	平成21年度から平成27年度までの6年間で4.5%(年平均0.75%)の増加であるため、平成27年度の数値を基準に平成29年以降5年間で年平均約0.8%ずつの増加と設定					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
— %	77.2 %	%	%	%	%	
—	40%					
目標区分 3 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 3 :	その他					(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標 3 :	飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延人数)			関連事業:	①②③④⑤⑥	
目標値 3 :	【現状値】 平成 27 年度 46,277 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 46,300 人					
設定根拠 3 :	平成24年度の約59,000人以来毎年減少しているため、現状維持を設定					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
41,690 人	41,116 人	人	人	人	人	
90.0%	88.9%					

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	座光寺「2000年浪漫の郷」づくり文化遺産活性化事業				実施団体：	座光寺地域自治会	
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	江戸時代～明治初頭の絵図、絵図対象地の現況、高岡1号古墳や恒川官衙遺跡の現況などの写真パネルを座光寺公民館などで常設展示する。観光ガイド用携帯写真パネルを作成する。地域の歴史文化遺産を紹介するパンフレットや動画を作成する。						
評価指標区分：	・その他				(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	地域文化祭の歴史関係イベントへの参加者数						
目標値：	【現状値】 平成 27 年度 132 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 200 人						
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
122 人	136 人						
61.0%	68.0%						
事業②：	座光寺「2000年浪漫の郷」づくり文化遺産活性化事業				実施団体：	座光寺地域自治会	
事業区分：	情報発信			事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	古老からの聞き取りをまとめた冊子『古老が語る座光寺』（仮称）の刊行、地域に残る古写真や映像のデジタル化と映像記録の作成を行う。成果物は飯田・下伊那の図書館や学校に配布する。地域住民を対象とした学習会、観光ボランティアガイド養成の教材としても活用する。						
評価指標区分：	・その他				(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	学校、地域住民の学習会、観光ボランティアガイド養成講座などにおける、冊子や映像記録の利用回数						
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 0 回 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 12 回						
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
0 回	0 回						
0%	0%						
事業③：	座光寺「2000年浪漫の郷」づくり文化遺産活性化事業				実施団体：	座光寺地域自治会	
事業区分：	人材育成			事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 33 年度		
事業概要：	情報発信事業として行う写真パネル展示、冊子『古老が語る座光寺』（仮称）、古写真などの映像記録なども活用し、観光ボランティアガイドの養成を行う。同時に、組織づくり（規約の作成、活動拠点の設置など）も進め、平成33年度に本格的な活動を開始できるようにする。						
評価指標区分：	・ボランティアガイド育成講座修了者の後年度活動者数				(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	観光ボランティアガイド養成のための講座に参加し、実際にガイドを行った者の人数						
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 0 名 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 8 名						
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率						
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
0 名	0 名						
0%	0%						

事業④：	座光寺「2000年浪漫の郷」づくり文化遺産活性化事業	実施団体：	座光寺地域自治会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要：	情報発信事業として行う写真パネル展示、冊子『古老が語る座光寺』（仮称）、古写真などの映像記録などを活用しながら、地域文化遺産に関する地域住民を対象とした学習会（講演会、現地見学会、体験学習会など）を実施する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	座光寺「歴史に学び地域をたずねる会」会員数の維持					
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 61 名 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 61 名					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
64 名	64 名	名	名	名	名	
100%	100%					
事業⑤：	川路地区文化遺産継承・活性化事業	実施団体：	飯田市歴史研究所			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 32 年度			
事業概要：	調査研究事業として行う旧川路村役場文書の整理・保存作業と並行して、旧川路村役場文書調査成果報告会、初心者向け古文書講座、地域住民と一緒に文書を読み解くワークショップ（地域史ゼミ）、調査研究の成果を還元する地域史講座などを継続的に実施する。					
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	川路地区を誇りに思っている市民（成人）の割合					
目標値：	【現状値】 平成 27 年度 71.5 % ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 75.0 %					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
72.0 %	84.2 %	%	%	%	%	
96.0%	100%					
事業⑥：	川路地区文化遺産継承・活性化事業	実施団体：	飯田市歴史研究所			
事業区分：	調査研究	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度			
事業概要：	平成28年度に実施した飯田市旧川路村役場文書の整理・保存作業の中で存在が確認された江戸時代の村文書の整理を、未整理の明治期の文書を含めて行い、目録を作成し、保存用の封筒や箱に入れるなどの保存措置を施す。作業の一部は地域住民と共同で実施する。					
評価指標区分：	(リストから選択してください。)			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：						
目標値：	【現状値】 平成 年度 (単位) ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 (単位)					
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
100 (単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)	
100%						